



平成28年度教育事業実践報告書

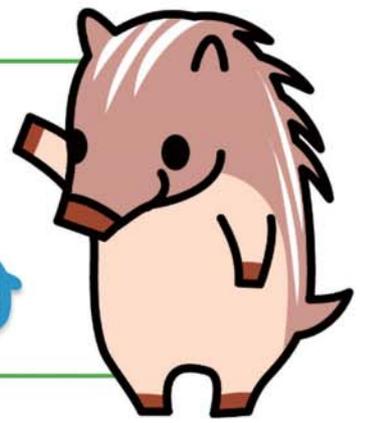
ウリソツクラス ～ウーリークラス卒業者の会～



ウーリークラス ～吉備の里山でおでかけ～



ウーリークラブ ウリソツクラブしくめ



新たな視点を見つける

育児について振り返る

まずは
体験してみよう

ウーリークラブ

【趣旨】

吉備の里山での活動や、講師による子育てに関する講義を受けることで、幼児期の体験活動や基本的な生活習慣を身に付けることの重要性を知る。

【概要】

・H25年度よりスタート

実施回数: [H25: 日帰り2回、宿泊2回(1泊2日)]

[H26: 日帰り3回、宿泊1回(1泊2日)]

[H27: 日帰り1回、宿泊3回(1泊2日)]

[H28: 日帰り2回、宿泊2回(1泊2日)]

対 象: 幼児を含む10家族程度

主な内容: 自然体験活動(ネイチャーゲーム・ツリーイングなど)

家族が入り混じって大部屋で宿泊

講師による保護者向け講義など



親子で成長する場を作り出す

試してみる



気付いたことを
生かしてみよう

ウリソツクラブ

[趣旨]

ウーリークラブに参加した家族が、継続して「子育て」の情報交換を行ったり、体験活動を通じて交流し、自然への関心を高めたりする中で、主体的に企画・運営する意識を高める。

[概要]

・H26年度よりスタート

実施回数：[H26：日帰り2回]

[H27：日帰り4回、自主企画2回(1泊2日)]

[H28：宿泊3回(1泊2日)、自主企画3回(1泊2日)]

対象：H25年度以降のウーリークラブ参加家族(希望制)

主要内容：27年度まで「自然農園」として使用していたフィールドについて、28年度は「ウリソツフィールド」として改変し、土地利用の方法からウリソツクラブのメンバーで検討し整備に着手した。

ウーリーワラフの概要

1. プログラムのポイント

ポイント① 「自然体験をする」

自然体験をすることで、心も体もたくましく成長すると考え、プログラムの中に組み込んだ。また、他の子どもと関わることで、さらに相乗効果を生むと考えた。

ポイント② 「保護者が子育てについて学ぶ」

専門的な知識を持っている方を講師として招くことで、子育てに関して、自信をもって取り組むことができると考えた。最新の情報を得たり、自分自身の子育てに関して気づいたりすることは、今後の子育てに自信をもつことができる。

ポイント③ 「保護者同士のつながり」

家族だけで悩みを抱えるのではなく、他の保護者と情報交換をすることで、子育てに関する気付きや工夫、不安などを共有し、子育てに自信をもつことができると考えた。

2. モデルプログラム (例)

平成28年度

第2回 11月23日(水)		
日 帰 り	10:00 おひさしぶりの会	
	10:45 講義・演習(親) 講義・演習「幼児期の子どもと体験活動」(多目的ホール) 講師:特定非営利活動法人岡山子どもセンター 代表理事 美咲美佐子氏	
	自然体験活動(子) 所内で冒険ハイキング。	
	12:00 昼食	
	13:00 きびの宝物を発見しよう(親子)	
	13:30 親子自然体験活動(親子)「ツリーイング」講師:遊木皆のスタッフ	
15:30 またねの会		
第4回 2月4日(土)～2月5日(日)		
1 泊 2 日	13:30 お久しぶりの会	6:45 起床・清掃・荷物整理・移動
	14:00 体験「人間関係作り」(親)	7:45 朝のつどい、朝食
	自然体験活動「宝のこぼれ集め」(子)	10:00 講義・演習「体験活動を通して子どもを育てる」(親)
	17:15 タベのつどい	講師:美咲美佐子氏(第2回に同じ)
	17:30 夕食	体験活動「36の動き」(子)
	19:00 入浴・読み聞かせ、情報交換会	12:00 昼食
	22:00 就寝	13:30 自然体験活動(親子) きびの宝物を発見しよう
		15:00 またねの会

平成25年度～平成28年度までのプログラムについて

親子一緒に プログラム

きびを探検しよう、きびの宝を発見しよう(ファミリーツリー)、ネイチャーゲーム、天体観察ツリーイング、※ネイチャーゲーム講師:岡山県シェアリングネイチャー協会

親子別の プログラム

【親】講義、演習

※講師:岡山学院大学、川崎医療福祉大学、倉敷市立短期大学、就実大学、(五十音順) ミユキ・アカデミー

NPO法人岡山市子どもセンター、NPO法人吉備野工房ちみち

NPO法人子ども達の環境を考える ひこうせん、NPO法人ほっとはあと

【子】自然体験:探検、昔遊び、ネイチャークラフト、宝物探し、お弁当作り、おやつ作り、



きびを探検しよう



きびの宝を発見しよう



シェアリングネイチャー



ツリーイング



冒険ハイキング



講義・演習



吉備の森で自然遊び



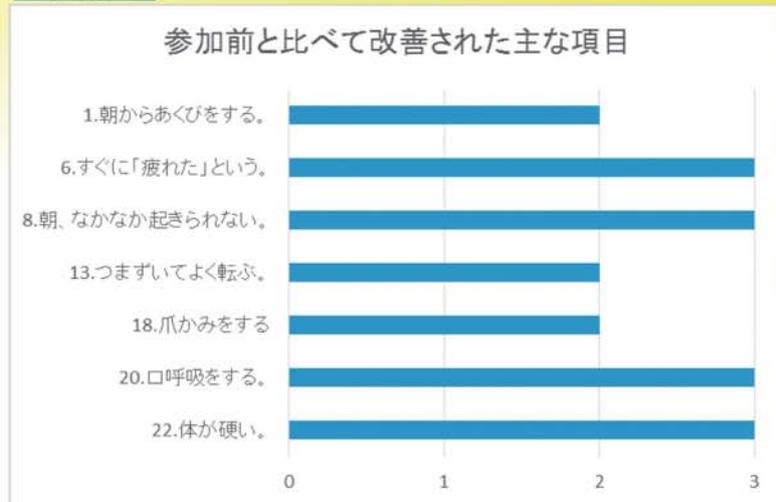
宝のこぼれ集め

3. アンケート結果 ※「子どもの心白書2015」（編集：子どものからだと心・連絡会議 発行：2015年12月12日）を参考。

別表1

質問内容
1.朝からあくびをする。
2.保育中、じっとしていない。
3.すぐキれる。
4.あまり汗をかかない。
5.あまりトイレに行かない。
6.すぐに「疲れた」という。
7.すぐに床などに寝転がる。
8.朝、なかなか起きられない。
9.夜、なかなか眠れない。
10.転んだとき、手が出ない。
11.ボールが目や顔に当たる。
12.椅子に座っているとき、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにゃぐにゃになる。
13.つまずいてよく転ぶ。
14.まっすぐに走れない。
15.動きがぎこちない。
16.奇声を発する。
17.指吸をする。
18.爪かみをする
19.よく腹痛や頭痛を訴える。
20.口呼吸をする。
21.発音の仕方が気になる。
22.体が硬い。

グラフ1



参加した子供21名を対象に、参加前と終了時の様子について保護者に22項目の質問(別表1)を実施した。第4回終了時にチェックが無くなっていた項目を抽出するとグラフ1のとおりで、「6. すぐに『疲れた』という」「8. 朝、なかなか起きられない」「20. 口呼吸をする」「22. 体が硬い」の改善事例が最も多く、それぞれ3名に改善が見られた。

4. 保護者の声

- ① 早寝早起きを実践することで、娘の情緒・行動が落ち着いてきました。本当にありがとうございました。
- ② けがをさせないように先回りして危険を取り除いていたが、ある程度のことは、そのまま見守ることも経験なのだということがわかりました。
- ③ 最初は、親や兄弟から離れることができませんでしたが、活動する中でだんだんとその場の雰囲気慣れ、少しずつ友達と話せるようになりました。最後には、親や兄弟から離れ、友達と走って行く姿には、びっくりするとともに、とても嬉しかったです。
- ④ 回を重ねるごとに自然の中での体験が増え、たくましくなっていました。家に帰っても、外に出て遊ぶことが多くなってきました。
- ⑤ 子育てについてこれでいいのかと不安になることもありましたが、他の保護者の方々とお話することで、皆さんも同じようなことを思っていることがわかりました。おかげで、自分だけが特別ではないことがわかり、自信をもって子育てができそうです。
- ⑥ ウーリークラブでお会いするたびに、少しずつお話しすることができるようになり、皆さんと交流が深まることに安心感を覚えました。

5. 成果と課題

【成果】

- ① プログラムのポイントに掲げた「自然体験をする」については、外でしっかり遊ばせたいなど、保護者が欲しているものを提供できたことは大きな成果といえる。
- ② 日帰りから宿泊への年4回の活動を通して、保護者同士のつながりも深まり、子育てについて学習することで自信につなげることができた。

【課題】

- ① 保護者のニーズを的確に捉えられるように、幅広い情報を整理する必要がある。また、多岐にわたるニーズをどのようにプログラムに組んでいくか工夫が必要である。
- ② ウーリークラブからウリソツクラブへとどのようにしてつなげていくのか、よりよい工夫を考えていく必要がある。

平成28年度

登録者数：76名（19家族）

事業展開の軸を自然農から自主企画に変更。参加者の主体性に重点を置いた内容に変更。

第1回（フィールド企画）9家族（26名）

Field Developed Program（フィールド開発企画）7家族（19名）

第2回（フィールド開発）7家族（21名）

第3回（自主企画「危険予知と達成感」）7家族（21名）

第4回（第5回の企画）7家族（19名）

第5回（自主企画「みんなの笑顔」）7家族（19名）



フィールド企画



テントサイト泊



人間関係作り

平成27年度

登録者数：87名（22家族）

前年度に引き続き自然農を軸に運営。自主企画の展開にも着手。

（前年度の最終回に発表した「やってみたいこと」も視野に入れ事業を展開。）

第1回（苗植え）10家族（36名）

第2回（畑作業）14家族（43名）

第3回（収穫祭）15家族（54名）

第4回（野外調理）28家族（21名）

第5回（自主企画「自然の中で本気遊び」）

第6回（自主企画「チャレンジと達成感」）



畑作業



収穫祭



テント泊

平成26年度

登録者数：48名（16家族）

前年度ウーリクラブ（最終回）でのアンケート結果（表1）

アンケート結果より自然農を主体に運営。

苗植え、収穫、調理の行程を経て家族間の交流を図った。

第1回（苗植え）11家族（38名）

第2回（収穫祭）15家族（31名）

途中3回畑作業日を設けた。（第1回のみ4名参加）

表1 アンケート結果

農園活動	15家族
交流会	14家族
講演会	11家族



苗植え



野外調理



やりたいことを発表

ウリソツクラブの発展

事業内容の一例(第1回自主企画)

第3回 10月15日(土)～16日(日)自主企画①テーマ「危険予知と達成感」			
13:00	受付・おひさしぶりの会	7:00	起床・洗面・掃除
13:30	(子供)レクリエーション (大人)ウリソツフィールド ※植樹準備	7:45	朝のつどい
		8:00	朝食
15:00	果樹園に植樹	9:00	(子供)お弁当づくり (大人)ウリソツフィールド ※テントサイト設置
17:30	夕食		
18:30	入浴	12:00	昼食(お弁当)
20:30	情報交換会 就寝	13:00	閉会式



[流れ]

参加者の活動の軸を「自然農」から「フィールド活用」に変更し、事業を展開した。ゼロからのフィールド開発に参画することで、自主企画・自主運営への気運を高めることを目標とした。

[参加者の思い]

- ① 子どもはハンモックがほしいと言っていました。みんなでお話しながら方向を決めてゆけばよいと思います。
- ② 交流をもたうりクラブの人たちとさらなるつながりを期待しています。
- ③ 子どもの成長に気がきました。おにぎりをにぎれるということにびっくりでした。お弁当、感動でした。

[成果と課題]

自主企画の充実を図ることができた。企画をするのみでなく、ウリソツクラブを継続していくため、事業への思いや現実的な経済面・業務面についても参加者同士で議論していた。ただ、内容が濃くなっていくにつれ、事業に付いてこれなくなる参加者も現れ、参加者の固定化がみられた。

できた空間を大切に思い、主体的に継続してみたいと思う。

事業内容の一例(第1回自主企画)

11月28日(土)～29日(日)テーマ「自然の中で本気遊び！」			
10:00	受付	7:45	朝のつどい
10:30	森のスタジアム	8:00	朝食
12:00	昼食	9:00	掃除
13:30	ハイキング	9:30	点検・テント撤収
14:30	テント設営	10:30	野外調理(すき焼き)
17:15	夕べのつどい	14:00	またねの会・解散
17:30	夕食		
19:00	ナイトハイク		
20:30	入浴・就寝		

[流れ]

前年度の流れを踏襲したが、第1回の際に自主企画の話をしたところ、予想を超える反響があり、急きょ2回ほど年度後半に自主企画を組み込んだ。

自主企画は「コンセプト」を大事にし、「何をする」ではなく「なんのためにする」に重点を置いた。

[参加者の思い]

- ① 子ども達が「いや」という時期までずっと続けて吉備青少年自然の家にお世話になって、親になった時、また利用して欲しい。
- ② 自主企画の事業計画がしっかりしていたので、とても良い内容となっていた。しかし、その分計画準備する人の負担が大きいのと思うので、計画・準備の負担軽減が課題だと思います。

[成果と課題]

自主企画の楽しさと大変さを知ることができた参加者が現れてきた。またウリソツクラブへの所属感を持った参加者も増えた。ただし、登録者数に対し参加家族が固定化して少数になってきている。

やってみたい(やらせてみたい)ことを意識して考え、企画してみる。

事業内容の一例(第一回)

5月11日(日)		活動内容
10:30	受付	農作業の内容 ◇畝作り ◇苗植え、種蒔き ・サツマイモ(安納、キントキ) ・トマト(ミニトマト、中玉トマト) ・スイカ ・カボチャ ・キュウリ ・スイートコーン ・ナス ・ピーマン
11:00	お久しぶりの会	
11:30	講演「自然農の魅力」 (講師:大北一哉氏)	
12:00	お弁当	
13:00	農作業 (講師:大北一哉氏)	
15:00	またねの会	

[流れ]

5月に苗植えを実施し、7月に作業日を設定した。11月に収穫祭を実施し、収穫したものを使って野外調理を実施した。

[参加者の思い]

- ① 星を見るのが楽しみなので、また宿泊できることを喜ぶと思います。
- ② いつもたくさんの仕掛けをしていただいております。ありがとうございます。
- ③ 大好きなミニトマトの苗植えを楽しんでいました。いろいろな種類があったので、食べ比べができるといいですね。

[成果と課題]

「食」をテーマに様々な思いを持ってもらえた。また、運営についても「こうしたらいい」「こういうことをしたい」という事を聞くことができたと同時に、そういう意識を持ってもらうことができた。



参加者同士の交流をさらに深め、考えや思いを伝えられる場にする。

◆ 参加者エピソード

もともと内向的な息子で、自分から積極的に活動に参加するタイプではありませんでした。ウーリークラブへの参加もそんなところが変わればと思い参加しました。

案の定、当日は父親から離れず、親子別プログラムでも保護者プログラムに参加し、私の隣から離れません。無理やり離すと泣いてやみませんでした。

ところが、回を重ねるごとにちょっとずつ自分から歩み出すようになり、気の合う友達とじゃれ合うようになりました。最近では「明日はウリソツクラブに行くよ!」というのでお泊りセットを準備するようになり、親子別プログラムも子供プログラムに参加し、レストランでの食事のときは大人は違う席で食べ、子供たちだけで食べるようになり、息子もその子供たちの輪に当然のように入るようになりました。

保育園でも運動会の閉会式の代表挨拶を任されるなど、2年前では想像できないような成長を遂げることができました。

見守ること、信じることの大切さを体験的に親も学ぶことができました。(参加保護者)



◆ ボランティアエピソード

参加者の女の子が「タベのつどい」であいさつを担当することになったが、1人ではできないという事で、友達に協力を頼みました。本番、その頼まれた友達は緊張から泣いてしまい、みんなの前に出ることができませんでした。あいさつを担当した子は勇気を出して、一人で見事にあいさつをすることができました。そういう空間ができてきていることに感動しました。

(法人ボランティア Uさん)

自然体験を通して、新たな発見があったり、経験をしたりなど子どもたちが自ら「〇〇見つけた!」「〇〇はどうして?」など自然に向かっていく姿勢をみる事ができた。子どもたち同士の中がどんどん深まってきているのを感じる事ができた。

(法人ボランティア Mさん)



◆ スタッフエピソード

ウーリークラブを初めて担当し、全ての保護者が子育てに大変高い関心を持っていることを実感した。

最初は、なかなか意見交換をする姿が見られなかったが、回を重ねるごとに、自らの思いを発信していく姿が見られた。その輪はだんだんと広がりを見せ、最終回には、まるで以前からの友達であるかのように話す姿も見られた。そうすると、子育てに対する考え方も深まっていき、ますます事業への満足度も高まりを見せた。「この事業は、来年度も是非実施して欲しい。」「本当に良い事業なので、周りの人に知らせていきたい。」など、皆に知らせたいという思いも高まった。

多くの保護者が子育てに高い関心と不安を持っていることがわかり、本事業の取り組みが普及することを期待している。 ウーリークラブ担当:企画指導専門職 瀧田正宏

ウリソツクラブを2年担当してきて、参加者の発言の変化に自らのモチベーションを高められたというのが、正直な感想である。

「こんなことをしてもらえませんか?」から「こんなことをやってみたい」に表現が変わり、「子供たちにこんな風に成長してほしい。そのためにこの活動をしたい」というようにウリソツクラブへの所属感、自分たちで運営していけるという期待感などを保護者の成長として感じ、また愛着を持ってもらっていることに事業の成功を確信できた。

28年度の最終回に、「ウリソツクラブ」の入り口となる「ウーリークラブ」の運営にも関わりたいという提案があった。将来的に事業がなくなることによる不安を感じた保護者が主体的に話し、お互いの大切にしたい部分を共有し合い、将来2つの事業が吉備を離れても継続できる体制を本気で話し合っていた。

これからどのように成長・発展するかかわからないが、参加者の成長の場としてあり続けたいと思う。 ウリソツクラブ担当:企画指導専門職付主任 黒田雅秀



[お問合せ]
独立行政法人
国立青少年教育振興機構
国立吉備青少年自然の家

〒716-1241
岡山県加賀郡吉備中央町
吉川4393-82
TEL:0866(56)7232
FAX:0866(56)7235
E-mail
Kibi-senmon@niye.go.jp

《事業の詳細》

ウーリークラブ

ウリソツクラブ

